

報枕

繪本四季物語

前篇

五

913.5

工

前編 5

報仇四季物語前編卷之五

東都

振鷺亭主人

著

第十回

噪峰檢校綽趣して劇場を説
艶之佐奇出て江湖上を玩

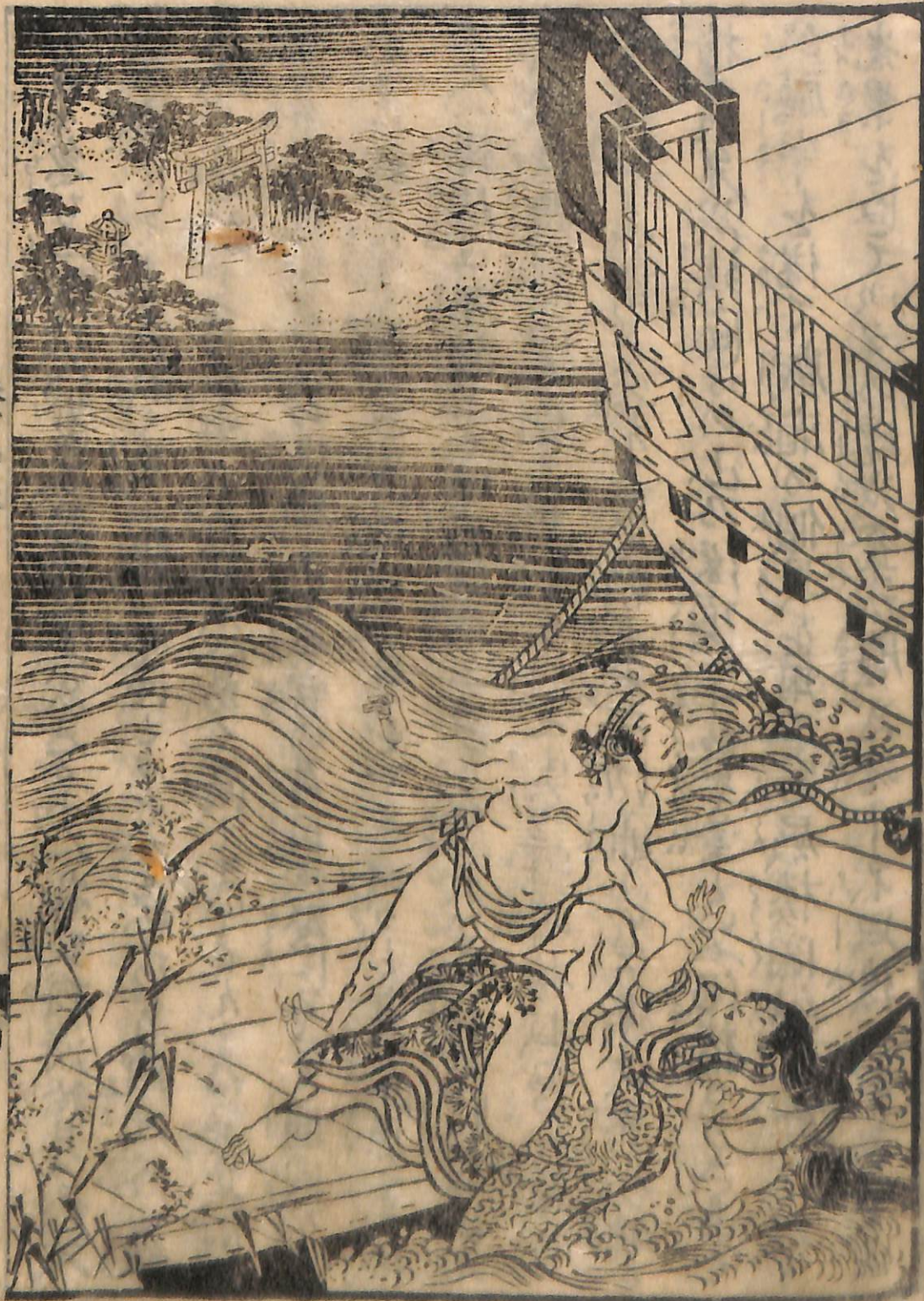
去程さきほど舟進ふねすすむの海上うみの上小漕こそう出でその夜よ三千里さんせんり成な艫かて洋中やうちゆうに泊とまり翌日あした又早またはや
天あま小こ風かぜ吹ふ舟ふねを走はせまるま其その日ひ月つき暮くるる及およびび大おほ回まわのの湊みなと小こ着きるる
弦ひなるる再また彼かの舟ふね六む陸りく小こととりりてていいららぬぬ唯ただ舟ふね底そこ小こ伏ふし居ゐてて九ここの波なみ路ぢ行ゆ
十じゅう里り不ふとと来きりり方かたをを日ひささままむむ我われ身みいいららぬぬとといいふふかかくく漂ひら泊たくししててああるる處ところにに到いたりり
又またををややいいららぬぬ辛つらきき目めよよやや遭あいいひひらられれしし事こととと只ただ願ねがひひををああららせせぬぬ
急いそ小こ許ゆる多おほ乃すなはちち人ひと来きりりてて路ぢにに成なりり一ひと項こうのの轎こし子こをを擲なげげしし海うみ道ぢ小こ出でてて去さるるがが忽たちちち

一掃美々敷土庫造の大夏高堂よりて而ち轎子を去園は昇す人あり
 新も廻り許きの養婢も出遊る路に或轎子の内より杖出で柵柵と脱し
 奥より付ひかき舟路路にひらるるのともあはれげして舟路は碎ても人心
 比もろくお例く息も涙もあはれ養婢急よ醒薬服用て口中小灌全
 漸々小甦醒せさあく小房なり路にハ此妙業成服すると心とと忽神人
 初よりて天明るまでと夜を眼次見て四下成看の以惣てこは家富公の
 豊なる光景も歴々の第宅と遠く廳の方に小教本の根柢を懸して光
 恰も白晝のどろろ時小又素袍小鳥帽子引てくる一個の官人出来り
 路に杖も能く上の方小坐成儀と懇懇小礼を以てくるハ吾子怪
 後よりとと某が面成看識ありヤ否と問小路にハおまといる人なま
 事と此官人の面とつくとはにぞ忽ち大い小孩て同て去るハ一箇の

州身老女小若やら是親に是比は急難成救ひけり此方小とらすヤ
 彼官人嘆て去いふも某の附捕師萩三といひハいり実ハ是
 萩野彌三郎伊三といふ者なり又揚子船を倣造る世ハ元来我が
 船の舟士小て吾子成此處小邀まひせんなるにむや心易は成ハ
 小と相列小田原はて澤田艶之依が第宅なり只今その明白とせ
 中さんとて左右小論じて正面に韓紙戸成さると用せり此附路にハ微
 眼成用て空窺ひるふ中央小相貌堂々なる一個の美夫ま倣然して
 着坐はぬぬの粧束厳小美麗なる座の傍ふ又一個の儉技帽子と
 裁き道服を被るが整整として併居る路にハなをも大光乃下
 在てつとくと那人の面を看る小正小とと驚く依るにハ一般ハ羨き一
 般ハ喜びて只大い小呆れをけりハは驚く依咲成ぬく路に小向く

なるいふ其の前日の越え佐との相違はさやたこと不審なる倡や
 その後故文説く詳小脚申さんとて去る年二月己の己日あり
 まん相列江島小おねて其にじり吾子成相見より互は笑用なりぬ
 志成運びかじつとも尚吾子が真の心中計さんか為さてこと才と運
 金澤小いりて百塚公小奉仕はるハ我がかたより愛きまごせを彰さん
 があまほに我身より百折千磨の艱難ともいと危窮小運の存亡
 臨てといさう列女の節成推さじ東一を駕と鑿定て我が悦は後さ
 所ありと頻り小後嘆はるハ路にえ来孝翁の才子なる由洲附大の小
 悟りて忽ち林のきん地とてさるふても君はまさしく朝夷奈の切通
 おおて絨のなる小うせさせ給ひるが今日の對面さらは不審小なるなりと
 小籠と依微笑くさるハその附其血成吐く死に」と見しハ驚て茜の

汁成は小合てまを吐吾子成敷きたるのと君と我と金成と地を
 一と乃始あり今日乃對面にある迄吾子と怖とは車ハすくこは夢中
 の空まめてその膽を細あひハ心成櫻はを貞姫いふと看脱んがな
 各くと句當て如出一出戯をばはつるいよく件々を語あじてを後批
 成見せ申さんといまぶさもるさるふ彼角熊男女川滝と助ゆるさ出て
 路にが常小踏踏てさるハ其金成小おねて死て相見はの世移るはさ
 元より某件の傳ふりて途中美姿の備して始終其身の後身小附陸
 中うちとハ志にりこにまづハ今日の吉辰万歳なりとぞ中なる路にをまめて
 滝と助小同てさるハたある附ハ其身成及よそ我と成救さんしてさる
 りありははなまを男女川咲て去今大平の時節其力ありとて
 争る櫻小人成誤中さんや只今明白をさせまいらば」とて堂と打拍



忽ち二個人出きり路の道に逢ふ人物実様滑稽が二
 口を齎して去るハ我々前小張三李にとめて合次ふらる所所谷の敏
 小入るる皂隸とらるる由るハるの彼が心易く落しまいせんがるる其附の
 耳鼻鳥珠ハるる偽の送物そ着官の耳目が驚じらるる通同なる
 今日ハ祇々全く瑕なき玉の好男ふるさどやと呵々と打笑ふ原こまは
 二人ハ俳優のお譚ふて此の説話小及て各々大い小真が怪しぬ附小
 彼檢校路に小向て去るハ某今日ハこま実の罽峰檢校するいふ是日
 すは孫ふも前日容を變て朝妻奈の切通小いり某又異人の袷ま
 扮て小身が該遠々の山乃後頂八十賢臺といふ所接りさるるを
 以願字を借て戲廂の假具を用て宮殿樓閣彩を耀きたる
 光景をばて小身の塊が棄集ひ臆が冷し不思佻の形勢とて

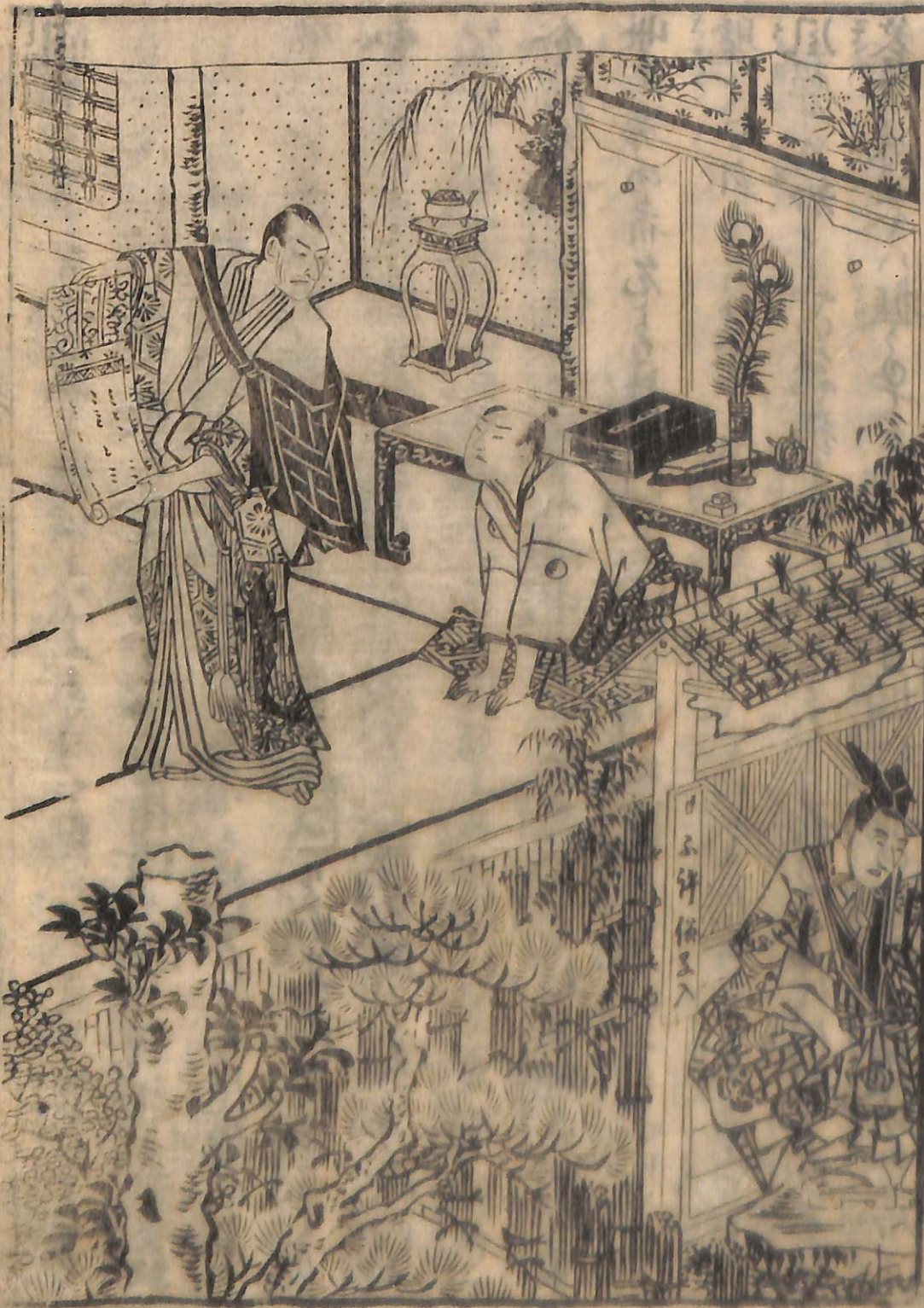
せりしる深山夜陸の末はじり実小異人などの窟よと別々を甚
 怖まよやみ孫ふも狂りうその時乃婦女等いそごし梨園の小且が雇ひ
 かせらるる或ハ雷雨鳴動ふことりるはるるを歌吹其至の鳴物を用て小身
 の心成初し忽ち所樂小推入る中が飛せ宙比波の砌小抄奔りしる
 小身のまま雲小捲揚る大踏小隊まこころ心地して夢幻の夢よ十
 方次其の孫小總たしは毛眼が掩ふ計る果て又茅屋の内小身を投
 小指しがそ夜比怖しきまのいそごるるまなんいさや三途河原相合法
 院これくと招きさる小終て二人の者出きたりぬ路にこまいさるる者そと
 ころ小の一箇家乃内をば見るとのともほりさるるいふと大い小強く不
 彼焼ハ又路の小念釈て甚ごゆるる家まかり驚く依は車情を看て
 喉をまらるる世老女ハ某が小法育の傳母とて由比波ハ平赤が在処るる吾子

して方てと見入るを新小一五十の的無きはらば整へ依各々小向てま
 六一件の中小某合伏の街とて奥買人は奥囃さる事し此附い実よ不
 乃其難所小平塚高麗は郎と二人の英勇我が弱き杖て之小
 かとの世も今其人慕ふといふも所来向志まひして今日此席小整
 然とも今中は人々を拵られたいさや各々成ねきらひて真乃酒宴と
 とくうはばとて已小興頭とて如小忽ち門外小尺八書なふ又安は活りけ
 處小一人の家僕来て是も依るも語く云るは只今門前小表束整齊
 かる普化僧来るが主人小対面て知己小うききは成事と云ひい
 じ申云や整へ依ぐ之你もさる我今客小相伴も是成初六と成
 知るが何と這等の直成我小中とや你さる米身と然なりと與ち
 へ取はば家僕が之僕すて小沙成あつて且とも彼却て持と受け
 と顧る人小対面の直成我ひ中ひ整へ依ぐ之を定て軒ある成志て乃
 のうちとほり米持を指あつて回すば家僕我もそをさるる少刻
 ありさる小又来て之僕只今一巾の沙を與中つても彼又持成受けて自
 持しと申るへ我へと直成清の道人の画で米持の存に米さるも只主人小
 対面して談すさるのありと申す整へ依ぐ之你いさるは夜對するを
 さるど主人へ今日客成ぬ忙さる相見はば用とありさる他日米れは
 いたさるをさる故とて彼再三世の如くいさるを家僕が之僕すてよめ
 世にも彼普化僧が中やうハ我を果仔細ありて隠小人小見ゆべき
 一をあのとていさる米持を眼小我ひと手整へ依ぐ之你何と這等
 車を曉さるや你なをば又吊の持成與てよとのう人よ又車をむら
 くせさる敢るふなすたとや我小知さるるのうさるは宴の妙なるを

して方てと見入るを新小一五十の的無きはらば整へ依各々小向てま
 六一件の中小某合伏の街とて奥買人は奥囃さる事し此附い実よ不
 乃其難所小平塚高麗は郎と二人の英勇我が弱き杖て之小
 かとの世も今其人慕ふといふも所来向志まひして今日此席小整
 然とも今中は人々を拵られたいさや各々成ねきらひて真乃酒宴と
 とくうはばとて已小興頭とて如小忽ち門外小尺八書なふ又安は活りけ
 處小一人の家僕来て是も依るも語く云るは只今門前小表束整齊
 かる普化僧来るが主人小対面て知己小うききは成事と云ひい
 じ申云や整へ依ぐ之你もさる我今客小相伴も是成初六と成
 知るが何と這等の直成我小中とや你さる米身と然なりと與ち
 へ取はば家僕が之僕すて小沙成あつて且とも彼却て持と受け
 と顧る人小対面の直成我ひ中ひ整へ依ぐ之を定て軒ある成志て乃
 のうちとほり米持を指あつて回すば家僕我もそをさるる少刻
 ありさる小又来て之僕只今一巾の沙を與中つても彼又持成受けて自
 持しと申るへ我へと直成清の道人の画で米持の存に米さるも只主人小
 対面して談すさるのありと申す整へ依ぐ之你いさるは夜對するを
 さるど主人へ今日客成ぬ忙さる相見はば用とありさる他日米れは
 いたさるをさる故とて彼再三世の如くいさるを家僕が之僕すてよめ
 世にも彼普化僧が中やうハ我を果仔細ありて隠小人小見ゆべき
 一をあのとていさる米持を眼小我ひと手整へ依ぐ之你何と這等
 車を曉さるや你なをば又吊の持成與てよとのう人よ又車をむら
 くせさる敢るふなすたとや我小知さるるのうさるは宴の妙なるを

奴等と叱りしは家僕の忠告にて坐を起てりるが良以て門外大ひ小
 用く呪る者ありて又別一人の家僕慌忙しく来りて懇く依小告て云るハ
 彼普化僧大ひ小怒て我を去るハ小出「尚呪り狂を門外と用志小
 懇く依て我算て大ひ小怒りし所ち自己小出て其交治を来りて死く
 門前小至りてを去る小一個の普化僧身の長六尺計とありんを身軀堂
 々として威風凜々なり彼普化僧之音多小叱りて去るハ你都て人を徹さ
 匹実皆其交唯くかおり我ハ日本無双の名士なり等用の上と一列小
 入るるに懇く依て形勢成りて大ひ小怒りし所小進んで彼普化僧小
 對して云るハ門坊今某に對面せんともハ法謝を求んがなるらん家人
 驚りてま布施交與へる別小来あるは是所小何故其三門前を用志
 ちるや彼普化僧略々と大ひ小嘆てのや某ハ生且米沙修行乃なる小

未だ只和服の名を慕ひて訪来りたり這等の匹ま某を起えて
 罵りて一肘に怒り乗じて門外を用志るハ懇く依らるハ本某と徹
 懇く依らるハ彼普化僧が云只七の高名を穿てその面を徹し懇く依らる
 懇く依らるハ某が奉るハ門坊何等のまありや彼普化僧は交せて叱く礼を
 返して云さてハ主人某が今この無礼を返してま懇く依らるハ門内へ入れよと
 引進す此時彼普化僧ハ天蓋交裁る儘去りて懇く依らる相せ大踏歩一
 洋々として玄園小出通りハ此下空依らる小宣りて別小僻靜なる所
 あハ俤ひの處をんやといふ懇く依らるを去て又引進て茶室の内よのこ
 賓主の坐字をて跪に佳茗の款待とすん且も彼普化僧ハ生且天蓋を
 脱して去るハ某今日始ての面諷ハ天蓋を脱するハ無礼小飯とりと
 某ハ生且我林九論の法則とすハ必ず怪とあるらん且某某和服小



剛中（とらふ）びぎのあり貴家（きき）の艶依（えんい）とふ人あらずや艶之依（えんのい）と云はれて大い強て
 云々の坊何を以て能く成知（なり）たもや普化僧（ふけそう）がふ某胡亂（うらん）も推察致（おしり）
 一ぬいぬ和敷の心中（ちゆうちゆう）もや吾怒（いみや）と依（い）唯唯（いっしょく）と答るに普化僧又云う
 咄人（わらわ）きて武忍（ぶにん）金澤（かねざわ）小まりて學校（がくこう）も奉仕（ほうじ）はるが其にじや宋子（そうし）より
 登庸（とうよう）て學寮（がくしやう）第一乃主管（たんしやう）とある學士（がくし）の寵幸（ちゆうかう）他も是より路（ぢ）に
 以美人（びじん）を擇（えら）て主人（しゆじん）婚姻（こんいん）をむも是に延（の）延（の）其夜（そのよ）いじてま夫婦（ふうふ）清苦（せいこ）
 合澤（がわ）を投奔（なげち）はるを孩（わ）小房中（せうちゆう）にある而表（を）伏（ふ）悉（しつ）く叔父（しやくふ）紀（き）之（の）遣（は）
 咄夫婦（わらわふうふ）の者（もの）えより些（ち）の愆（あやまち）をかじて何故（なに）じらるるかおをのこしてさ
 曉（さと）じこれより某下（か）武寮（ぶしやう）訪（たづ）小いまことの人よ尋（たづ）合（あ）といふ人界（にが）との
 風聲（ふうせい）成（な）知（ち）もやのや怒（いか）と依（い）唯（い）ととる長（なが）る普化僧（ふけそう）咄（わら）不明（ふみょう）不白（ふはく）
 答（こた）武寮（ぶしやう）と今（いま）の推（おし）とて云々の某昨日（か）欄行（らんぎやう）橋（はし）の書肆（しよせい）且（かつ）越坊（えつぱう）の店（みせ）

一箇（いっかん）の秀（しゆ）下（か）座（ざ）て書（しよ）成（な）觀（くわん）るあり其怒（いか）をさる艶依（えんい）の所（ところ）形（かたち）は依（い）依（い）
 云々の前頃（まへころ）合（あ）決（けつ）小在（せ）判（はん）とと妻（つま）て其（その）怒（いか）と依（い）整齊（せいせい）る一表（いつへう）乃（すなは）
 見（み）たる某尚（か）許（もと）小入（せ）とととて其（その）人（ひと）の法（はふ）小随（し）ひて来（き）り一平（いつへい）某家（か）
 門内（かど）小入（せ）ぬ其人（そのひと）分明（めいめい）小怒（いか）依（い）ととる又其人（またそのひと）乃（すなは）形容（けいよう）頤（い）和（わ）殿（でん）の摸（も）様（やう）
 似（に）たりと咄（わら）怒（いか）ひ海（うみ）を以（も）て咄（わら）支（し）奈（な）何（なに）とと同（どう）諾（だく）ら怒（いか）と依（い）唯（い）ととる
 人（ひと）の怒（いか）と依（い）唯（い）ととる坐（ま）を死（し）て法（はふ）と負（お）と入（い）りぬ志（し）かほよ又頃（ころ）ありて一人（ひとり）の
 僕（こ）まをて中（ちゆう）多（た）小入（せ）人の坊（ぱう）を後堂（ごたう）小請（しやう）まをせよとすいさきと進（しん）か
 一平（いつへい）普化僧（ふけそう）の少（せう）も粹（すい）す尚（なほ）も天蓋（てんがい）成（な）裁（さい）法（はふ）も怒（いか）と依（い）唯（い）ととる
 小志（せうし）と依（い）唯（い）ととる後堂（ごたう）不至（し）りて金（かね）六（む）榻（た）火（ひ）檀（だん）とて席中（せきちゆう）席外（せきがい）を照（てう）る
 土（つち）の孔（くわう）腋（あき）小草（そう）て優（ゆう）小坐（ま）居（ゐ）るが脚（けう）ち普化僧（ふけそう）を進（しん）めて壁間（かきま）乃（すなは）
 上坐（じやうざ）小就（しゆ）りか許（もと）多（た）の家人（かじん）尤（なほ）小侍（せうじ）りて奔走（ほんそう）と来（き）ぬと怒（いか）

つゝそそ成執とてこころへに坊はじり乃は彈た指さりしと心こを實じて
 まる一執しきにはし冷ひじとそ懇いん懇きん小勸せうめておいくは肉にく豚とん肝かん在あけ玉たまく
 克さ志しをそ統す小酒せうもあ救きう巡じゆんぬはるは普ふ化け俗じやく然ぜんと依小せう向かうてとまうとは酒しゆ十分じふかよ
 遇あつたれいはしくとまを救きうて疾く某の形中ちゆうの疑を疑志しを疑志しとよ此し時じ然ぜんと依
 るとのを思して干るの坊はままさる壁かべ間まの詩を讀て其の意を猜
 したとんや孩わの附某の稟れん復ふく詩し中ちゆう小せう自じ今いま明めいはて其其疑ぎ所しよを決
 ばいとて即すち喜まふに猶必かならず兼かね志しぬは六む普ふ化け俗じやくはこを受て坐を起
 之間の若し進しんと編箋せんの裏うつろく看み小せう八はち句くの詩あり讀下くだとゆ
 一い遍へんて忽ち驚く依小せう向かうてまうそはい直ちやく彼か然ぜん結けつが合反はんの言校こうし書しよ遣けん
 一いの待他たはて又また同どうをさる其只ただ今いま此し詩しの意を解得とくとせかて謎めを猜
 一いの首聯れん小せう疑ぎ向かう金きん龜き洞どう裏り遊ゆうとまままの結りてのひありゆ

行跡ぎやく端たん爲な可か人にん雷らいとハ中ちゆう途と人にん小せう田でんとてさまり東成じやういふる人
 第二だいに聯れんの願隨ぜん紅かう拂ふ同どう高かう路ろ敢かん向かう朱しゆ家か惜しやく下か流りゆうとハまま才さいと
 屈くつ一い投たう靠かうるのお契てすて小逃たうるの意いとて第だい三さん聯れんれ好事じ已い
 成じやう誰たれ索さく笑せう屈くつ身しん今いま奈な向かう含かん羞しゆうといふ此し兩りゆう句く小せうあまきかるの未み聯れんの
 主人しゆじん若し問もん真しん名な姓せい只ただ在あり艶佑えう兩りゆう字じ間まといふ此し乃の問もんの字まま
 解かいむらくとの訓ちりび然依いの兩字じ或ある間まとまハ中一い字じを加ゆはに
 加かゆる文字じ名な小せうおおて之の字外がいあるはたさてここ此し艶えん佑えうの名ハ權の
 願げん異いはて真まことの名ハこれ艶えん之の依いといふるん某のここ武ぶ列れつ合がっ反はんの人
 操そう原げん七しち良りやう太たま百縁えん乃の不ふ心しん依いの得見けんありと勢せい漂ひょうとと森しん小せう噴ふんて
 件けんの天蓋たいを脱衣いか満面めんは暖以い合がっ意い柔じゆう揚やうとハ此し時じ然ぜんと依之の
 面めん成じやうるよう急まとらといつて未坐みざ小せう紀き衣い即すち彈伏ふくとハ中ちゆうままと

今日いづる吉日にて舊主小評一奉るや却て夢うと疑れぬとして只顧首
 次俯向けし本ふ忽ち一個の新娘瀟沓梵頭を披白紋の小袖引粧て
 出来しを懸て依り傍小跪く忙きく百縁小向て礼をなまき百縁色を
 只懸じや路に當面小得せせよとある小懸て依り是又冬て昇件乃
 瀟沓梵頭を科多きこ是即ち路にまで只顧羞慚小堪てさらけ面を
 擡ざりける懸て依り百縁小向て僅で中なるハ我々主婦のをも乃做親の
 めハそと公の容許なき所多しと亡命の罪礼小おわて缺る事
 なまハ此一擧某が心中甚ぞ懸るは疑くハ買取我々を憐て精う
 たまをらんや百縁色を授て云此一擧情癡に似たりと衣飾を封還
 て一物も取所なくこ是礼義の人多きこ名士の志或枉さるハそなハ
 風流の君子なる某今日あたりて路に乾い食となうとこび流滴乃

礼を給じむり連師一聯の請白小感して券契を借し婢女出り
 崔却又與類多ん歡喜くとして只顧瀟沓美はるハ懸て懸て婦ハ
 又又感謝よこも礼をぬりて再び杯盤をあたはるは宴後しハ
 百縁中の真小座にて尚東の詳多き即ていよく同小を懸て依り
 准て色に及も首より尾小多まで一々説分るは百縁微細を穿て斜
 るるを懸て日は小兒小小歎きりて夢を撫て大ひ小笑しける此附
 一件の各々席上小はらりてみな笑つはの舎小てそはりあり備百縁小ハ
 昨夜歡次盡し遂小翌日合は小婦也淡漱夫人小件の情由を一々
 語多るは夫人一般ハ懸て一般ハ喜て甚ぞ風流の事とす夫人元より
 路にを懸てさるる優るはるはるにおわて約千金用て装束區を具儀
 式を整齊して帽依の者小回東小いける懸て依りち一族諸君を



推頂水十南無其露王如来



犢鼻褌と叫状匣のまゝの今身も小一物となく賜ふべき衣ももつた
 何の魂心あんとて天を仰ぐ歎笑ふ小絨袋も小想で你一物とみたか
 膝裏をぬぐととも取す一把の朴刀まゝと拵て振舞ふ内へは
 日々と叫て一堆とりの籠を懐いてゑるハ你等かゝるも鹿鬼も
 大と泰も勘合の脚のうの你等後目をとるべし犢鼻褌の許さ
 取とどとと瀧下件状匣を小絨袋小投し犢鼻褌袋入とと喚てはく
 飛ぶ如く逃去る強盜等ハ此光景を見て只呆てる中ハ一箇の老賊ありて
 件状匣を拾ひあげ蓋を發て中を見る小只一點の薬ありてハ彼奴
 急病人の脚のう丸詮る之間を曹ねとて衆皆咄と打笑ぬ此時高麗
 三更の鐘響きてたゞ嵐ふ号む松の音溝小集く蛙の交のまゝ
 一むら雨乃とほくかざらば小水橋の上ハ怪きまゝのことあら
 白き袷着て腰より下へまかく女乃發するその泣声として
 光景なる一箇の小絨袋をさへ怖怖してゑるハ你等彼等の情乃と
 まはしく幽霊こそあらわれり又一箇乃小絨袋をさるるも
 溝の畔乃小灌頂水ありたさぬ女など乃亡矣今此件ハ迷ひ
 又ん又一箇の小絨袋を你等強盜を活計も身して亡矣と
 成ることを未練なり一変変化れとのありやとのふ態を
 衆皆いよいよ身を取てさらハ幽霊を生捕やもぬま
 不ふ果して一箇ハ強盜一とまを執小間道くありて
 長衣の女小龍の身小ハ志るも衣裳小ハの引ま
 夜あら小吹く赤靴の光景小て執小強盜等が
 むらくと弛勢取て捉柱て入る小出と天下無雙の美人

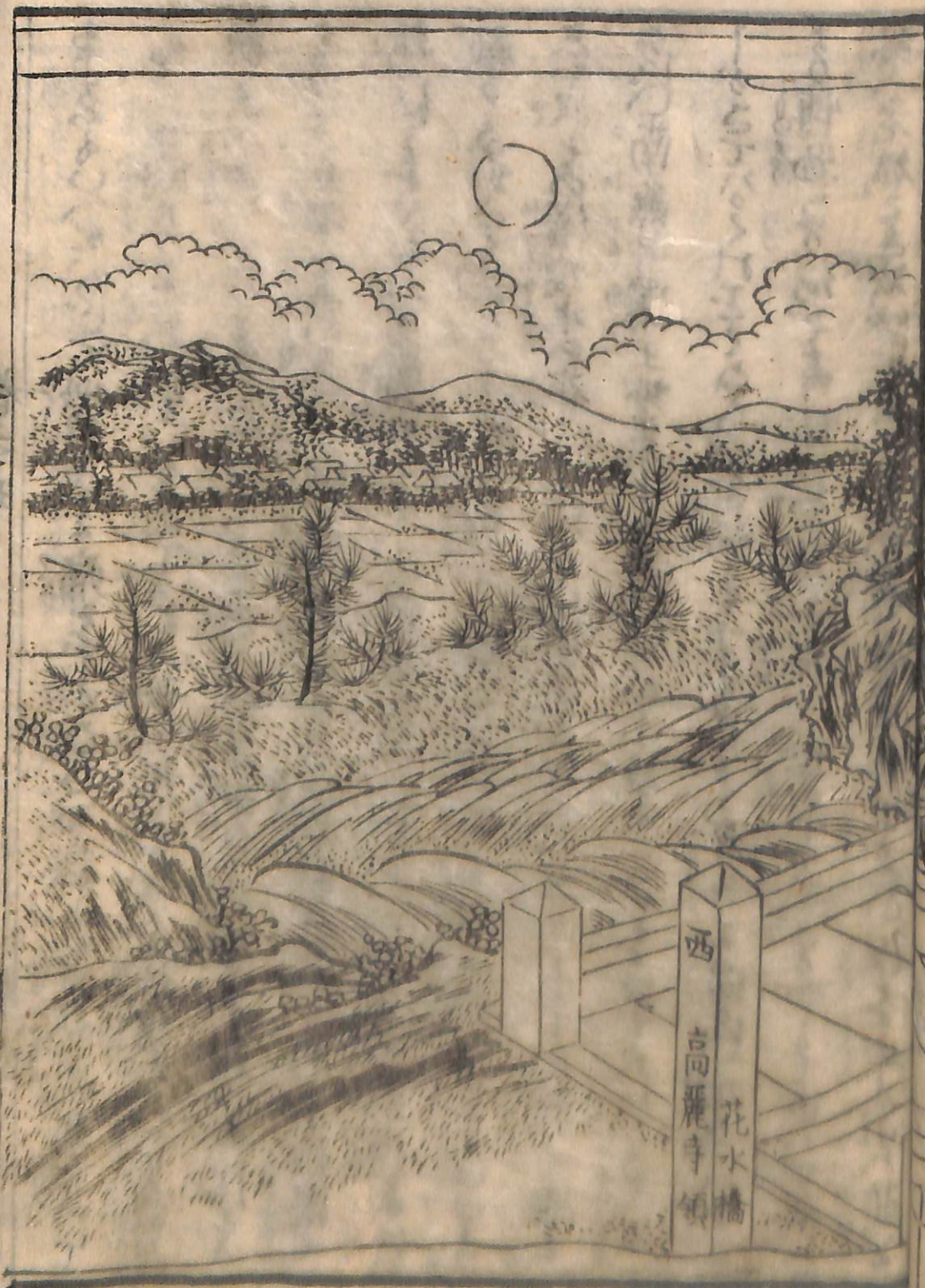
一むら雨乃とほくかざらば小水橋の上ハ怪きまゝのことあら
 白き袷着て腰より下へまかく女乃發するその泣声として
 光景なる一箇の小絨袋をさへ怖怖してゑるハ你等彼等の情乃と
 まはしく幽霊こそあらわれり又一箇乃小絨袋をさるるも
 溝の畔乃小灌頂水ありたさぬ女など乃亡矣今此件ハ迷ひ
 又ん又一箇の小絨袋を你等強盜を活計も身して亡矣と
 成ることを未練なり一変変化れとのありやとのふ態を
 衆皆いよいよ身を取てさらハ幽霊を生捕やもぬま
 不ふ果して一箇ハ強盜一とまを執小間道くありて
 長衣の女小龍の身小ハ志るも衣裳小ハの引ま
 夜あら小吹く赤靴の光景小て執小強盜等が
 むらくと弛勢取て捉柱て入る小出と天下無雙の美人

互小目と目を見合せ相抱ひ彼老絨ハ衆小睫と彼女小眉小対ひ言成
 和らきて云るハ女眉也も怖るもよるも是れ我々ハ比顔お比く然而明を言
 者ぞ又其極て追剥勾る等の様小食食人さらく強盜の後小恥を
 心易直との所縁乃方送送らまいせんが何也(黄夜に一人比下よま
 移ひ一と宥れ送)て申す小彼女小眉雙眼小涙をうかちて云るハ吾儕ハ
 ふつき仔細のまじりてむと小被成無び出六後より逐人の惣をそのそ申
 と此小被後志はに疼く路を通たまといまも云る言所小忽ち吊灯の
 光見く計多の人衆をなと強盜等こぞ見えてきてこそ逐人のとの事う
 我々よき小謀ひ申さんそ忙き彼女眉を投て倚る野庭の肉小身を
 我々世外より圍を引くそ又何来なきといふとてはて居る処小一燈の人衆
 なる小毘を今手に抱束るも此(此)と見てさへは玉(玉)個の女ハさうま
 強盜等口をき断り答ていふさ小一個の脚力通すのこもるて女ハとこ
 かり逐人の人衆こぞ見えて仰り合るハさて其の方(方)落ひさるるんさ
 り回せとも又この路(路)急急なるハ小被無いふは事者ぞかぬと吐息ひ
 るが又の女眉ハいじて悲び出さんと叫ぶ小又老絨がハ中我々の女眉
 我々小雀甲の素綾の衣裳を彼らこぞ花婿の礼服多解のま
 歩路の初聲をうきバ科る小女眉今宵(宵)壓て借燈をたるががの
 志のび沈ぬまあるて確き響を忌強ひ圍房より脱出するとのあはあ
 急ぎさるにあさとも小被等こぞ見えて下のわさこちて云るハいふ小見ハ
 天乃與る寶多う我々の女眉を今宵の書とほて生衣の姫を扱んハ
 いふぞや老絨がハ成る最愉快といふ我ハこぞ齡五十ハあぬまを合
 我小辱てさうく早業ハ協に仕るとのハ我速なるハ你等恨みさ

強盜等口をき断り答ていふさ小一個の脚力通すのこもるて女ハとこ
 かり逐人の人衆こぞ見えて仰り合るハさて其の方(方)落ひさるるんさ
 り回せとも又この路(路)急急なるハ小被無いふは事者ぞかぬと吐息ひ
 るが又の女眉ハいじて悲び出さんと叫ぶ小又老絨がハ中我々の女眉
 我々小雀甲の素綾の衣裳を彼らこぞ花婿の礼服多解のま
 歩路の初聲をうきバ科る小女眉今宵(宵)壓て借燈をたるががの
 志のび沈ぬまあるて確き響を忌強ひ圍房より脱出するとのあはあ
 急ぎさるにあさとも小被等こぞ見えて下のわさこちて云るハいふ小見ハ
 天乃與る寶多う我々の女眉を今宵の書とほて生衣の姫を扱んハ
 いふぞや老絨がハ成る最愉快といふ我ハこぞ齡五十ハあぬまを合
 我小辱てさうく早業ハ協に仕るとのハ我速なるハ你等恨みさ

中う小氣紀を以て一二と定めてまづ一年ぶきその戎第一番より其座
 の内小入ははきや衆の是を以てまづ八位さまさび中の頂老より最
 おとはき計ひる二真のりとして教真踊躍一さてその年紀を以て
 第一番小八蟬蟻朝二年十九第一番小八鳥羽玉暮は郎年二十
 第三番小八龍速大年二十三第一番小八泉惡亞大年二十五第一番
 又小夜風渾二年二十六第六番小八團真坊首汲年二十七第七番
 小八の老絨畢九鼓瓶年五十二の六いふく殿小定よりるがきて老絨
 又伴の杖匣を把出てまづ八位さまさび杖匣の中を肴上一貼の如薬ありは
 こを以て大ひに賢精を強くまじむる如削りて知書は是より伴
 の糸一ひづ用きや小絨留こを以て大ひ小悦ひ衆留伴の薬を捨ぢち
 小八のては小一齊小直衣被(了)六即ち第一の蟬蟻の命を以て

及んで就小野座の内より入るとはなるが忽ち身を恨一眉をひてを
 まる八位今海をこまづきぬとて即ち溝の上まで希流をはる良頃刻
 まるは五の第二の鳥羽玉心標してまづ伴何は玉をき換く我とかとらんや
 蟬蟻がらん我今希流を以ていんとも止じは伴もまづ第一の藏を懐中し
 鳥羽玉を以てまづ其座の内小入らんとはなるが忽ち又止てまづ我も
 又はまづははきぬ第三番龍まの進りとして以て同く溝の上まで小解と
 ひと龍又計してまづ八位もまづ海を火急小逼りて又後で流水を七は
 けが残堂第一番小誰を彼も急來小海をこまづきぬとて標さあつく
 さらば一同小坂東の連小役を又ははとを衆留一列小溝の上小立候小役
 を撤且る東恰瀑布の流を花泉の海をか如くして止附さらばあらは
 是の希代の跡東か又我の業を破やいなや海をこまづきて編身瘡



卷之五

来るものいよいよして此のどきよ痛をやあることごとくして且其の且置つて
 甚ど煩悶なり老賊はていをきてるを拍て笑て云哉今や你等をいつ日腎
 薬といふ薬をいふは是れ大破りか今更なき小伎方前より妙業小伎秘法を
 そのこと我服も道へま地小通儀疾なきの誤て服するやいなや小伎溢て
 後じとぞび教小の脚力がどぞ小病なきのハ薬をとの小技きて持まに
 解るものあつていふもさうさ小你等驚くく腹たさかや小伎止物なるといさま
 志や只その灌頂水の布よ小伎を灌めよとの功德小よりて小伎不通と
 りじ南無井露王如來とをあざけぬ小賊等ハ是をばて大ひよ果果
 しがていふくけどならば奈何もするのたかき命も運じ頂老のひと
 よる博物さう何ぞ奇妙の智慧を振て急症を救さやとて或ハ哭或ハ
 怒ハ老賊は是れはていふもハ我界をばていふはけ罵りていふはけ
 粥とほて喰ふ一方の小賊等も道を空て景色をみはてさあはら
 博物の世ハ乃とく面白く細いさ藤を痛きこん但你未老もさうと
 魁さるものさよとて返小一隊小おつて出さう又さ路でて新を屈曲
 らり又西足度く踐でよろめきゆぐぞおじりき此時老賊ひととさばら
 らるる謔てのハ彼奴等肯々と我脱筆の謀畧小中とぬさるおてハ彼所の
 聖廟にこそ給ふいさるる貴人の息女さるやまこ世にこひなこ美人さ
 然る小日一人の獲物として只今夜元紅せんあみあさる攻盗冥利小
 帰さるやや叢のささく虫の多のさる人もは造化好々として伏て野廟乃
 園をひらき親小押入らんとは世處ハ極然ととも肉より刀の鋒閃出
 此老賊膽を利せよと一声啾啾と叫て忽ち撲地と倒てる此時鐘の音
 殷々として杜鵑一麥啼はるり伴の野廟の内より一個の人あらは出ぬ

来るものいよいよして此のどきよ痛をやあることごとくして且其の且置つて
 甚ど煩悶なり老賊はていをきてるを拍て笑て云哉今や你等をいつ日腎
 薬といふ薬をいふは是れ大破りか今更なき小伎方前より妙業小伎秘法を
 そのこと我服も道へま地小通儀疾なきの誤て服するやいなや小伎溢て
 後じとぞび教小の脚力がどぞ小病なきのハ薬をとの小技きて持まに
 解るものあつていふもさうさ小你等驚くく腹たさかや小伎止物なるといさま
 志や只その灌頂水の布よ小伎を灌めよとの功德小よりて小伎不通と
 りじ南無井露王如來とをあざけぬ小賊等ハ是をばて大ひよ果果
 しがていふくけどならば奈何もするのたかき命も運じ頂老のひと
 よる博物さう何ぞ奇妙の智慧を振て急症を救さやとて或ハ哭或ハ
 怒ハ老賊は是れはていふもハ我界をばていふはけ罵りていふはけ
 粥とほて喰ふ一方の小賊等も道を空て景色をみはてさあはら
 博物の世ハ乃とく面白く細いさ藤を痛きこん但你未老もさうと
 魁さるものさよとて返小一隊小おつて出さう又さ路でて新を屈曲
 らり又西足度く踐でよろめきゆぐぞおじりき此時老賊ひととさばら
 らるる謔てのハ彼奴等肯々と我脱筆の謀畧小中とぬさるおてハ彼所の
 聖廟にこそ給ふいさるる貴人の息女さるやまこ世にこひなこ美人さ
 然る小日一人の獲物として只今夜元紅せんあみあさる攻盗冥利小
 帰さるやや叢のささく虫の多のさる人もは造化好々として伏て野廟乃
 園をひらき親小押入らんとは世處ハ極然ととも肉より刀の鋒閃出
 此老賊膽を利せよと一声啾啾と叫て忽ち撲地と倒てる此時鐘の音
 殷々として杜鵑一麥啼はるり伴の野廟の内より一個の人あらは出ぬ

